

## 3月6日のウクライナ情報

安齋育郎

### ●ダグラス・マクレガーの戦況の見立て(2023年3月2日)

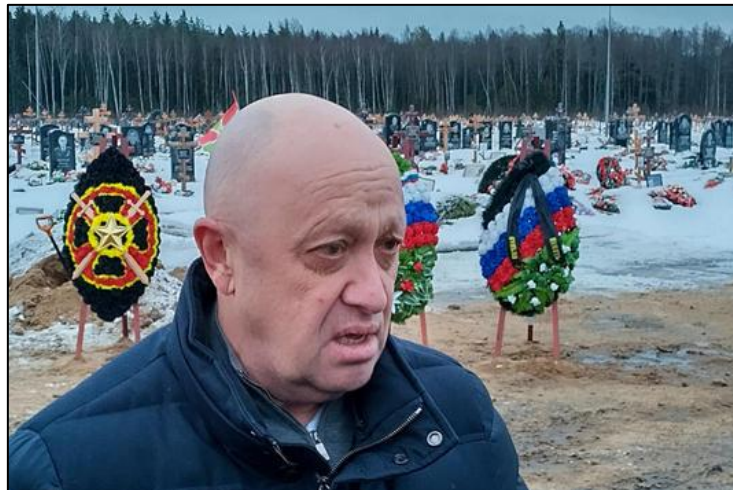
ウクライナは腐敗と欺瞞のブラックホールであると、ダグラス・マクレガー退役米大佐は言う。少なくとも 50 万人の死傷者を出している。だからこそ、ゼレンスキーは NATO 軍を強化することを口にしたのだ。



### ●ロシア軍、バフムートをほぼ制圧(2023年3月3日)

ウクライナ侵攻に戦闘員を投入しているロシアの民間軍事会社「ワグネル」の創設者プリゴジン氏は 3 日、動画を SNS に投稿し、ワグネルの部隊が東部の激戦地バフムートを「ほぼ包囲した」と主張した。

プリゴジン氏は動画で、「(バフムートと周辺をつなぐ)残された道路は一つだ」と述べ、ウクライナのゼレンスキー大統領にバフムートを放棄するよう求めた。また、「バフムートでの(住民の)寿命は短い。彼らに脱出する機会を与えるべきだ」と述べ、ゼレンスキー氏に脱出を要請する男性 3 人の姿を動画に映した。



### ●要衝バフムト「包囲」とロシア軍事会社が主張 ウクライナ「戦略的な撤退」の可能性に言及、重大局面か(東京新聞、2023年3月4日)

ロシアの民間軍事会社ワグネルを指揮する実業家プリゴジン氏は 3 日、ウクライナ東部ドネツク州の要衝バフムトを「包囲した」と主張した。ウクライナ軍は「戦略的な撤退」の可能性に言及しており、昨年秋から続いている攻防戦は重大局面を迎えているとみられる。

またロシア国防省は 4 日、ショイグ国防相がドネツク州を視察し、前線の兵士を激励したと発表した。日時は明らかにしていないが、同省は国防相が戦地入りしたとする動画を公開した。

バフムトを実質的に包囲したとするプリゴジン氏は、通信アプリを通じて「(ウクライナ軍に)残された退路は一つだけだ」と指摘。一方、ウクライナ大統領府の高官は米 CNN テレビに対し「軍はあらゆる選択肢を検討する。戦略的な撤退もあり得る。すべては軍次第だ」と語った。

ロシアのプーチン大統領は侵攻に際しドネツク、ルガンスク両州からなる「ドンバス地域の解放」を掲げている。バフムトを足掛かりに占領地域を拡大する構えだが、ロシア側も死傷者が急増していると思われる。

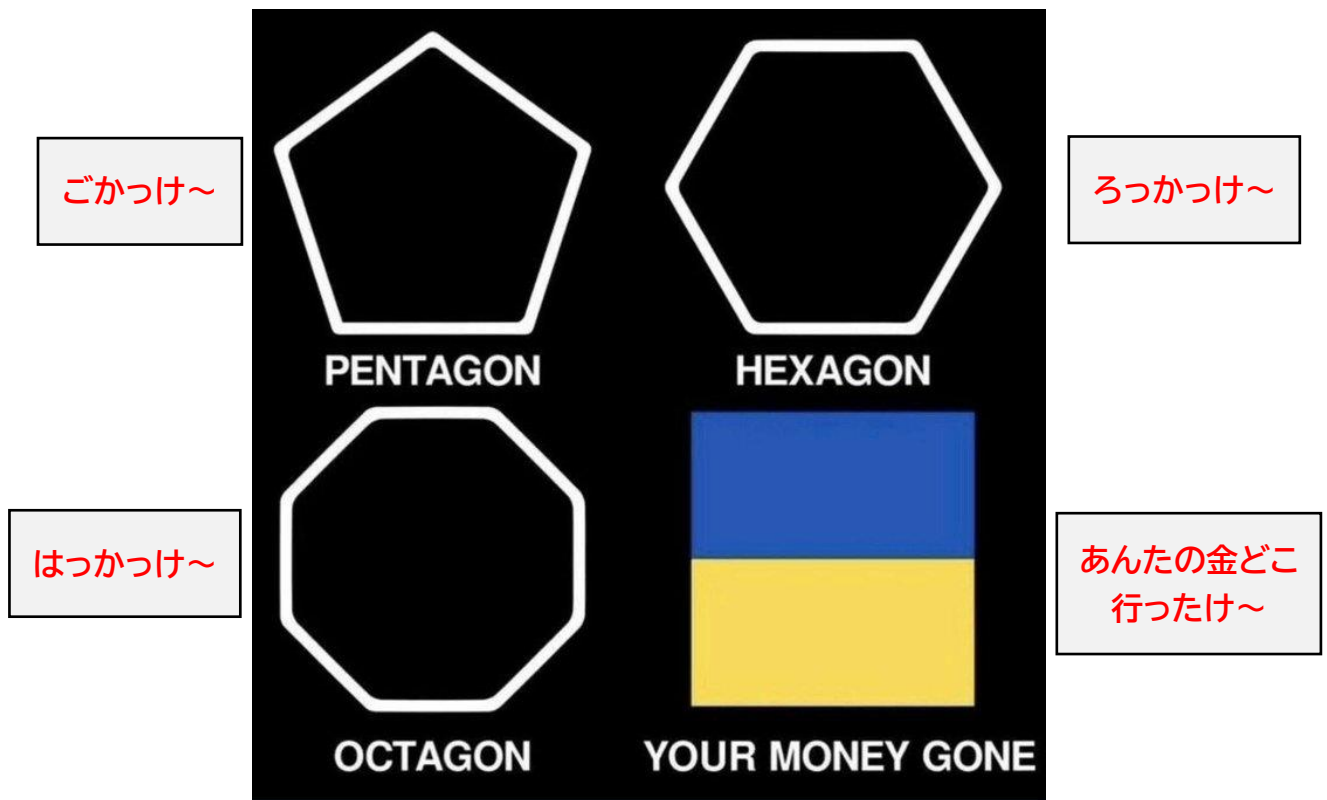


### ●風刺漫画(2023 年 3 月3日)



制裁だ、制裁だ、制裁だ、制裁だ~~~~~！

●語呂合わせ冗談(2023年3月3日)



●退役米陸軍大佐・政府関係者 ダグラス・マクレガー(03/03/23)

”ウクライナ人の死者は 20 万人に迫り、負傷者は 30 万人をはるかに超えている。ウクライナ人の状況は、控えめに言っても悲惨であり、本当に非常に悪い。”

<https://twitter.com/i/status/1631602618756915201>



●駐米ロシア大使がウクライナ側によるテロを批判、「米国の手は血に染まっている」(2023年3月4日)

ロシア西部のブリャンスク州で発生したテロ行為は米国の軍事支援に気を大きくしたウクライナ側の行為で生じたものである以上、米国の責任を負っている。ロシアのアナトリー・アントノフ駐米大使が表明した。

アントノフ駐米大使は記者団に対し、次のように発言した。

「米国の兵器が送られるにつれ、キーウの犯罪者たちはますます気を大きくしている。合衆国の支援に背中を押された者たちが非人道的な行為に手を染め、ブリャンスクのようなテロ行為を引き起こした。ワシントンは民間人の射殺に加担した者たちの背後にいる。つまり、この非道な行為に責任を負っているということだ。米国の手は犠牲者の血に染まっている」

また、アントノフ大使はロシアに戦略的敗北を味あわせようとする米国の試みは失敗すると指摘し、その支援はキーウ・レジームが経験する臨終の苦しみを引き延ばしているに過ぎないと評価した。

3月2日午前、ロシア西部ブリャンスク州にウクライナの破壊工作グループが侵入した。破壊工作グループは、同州リュベチャネ村で自動車に発砲、地元住民1人が死亡、10歳の子どもが負傷した。その後、新たに地元住民1人の死亡が確認された。ブリャンスク州スシャヌィ村では、ウクライナのドローン(無人機)が投下した爆弾によってアパートが焼失した。

ロシアのプーチン大統領は、ブリャンスク州の2つの村に対するウクライナの破壊工作グループによる攻撃を「テロ行為」だと指摘した。

「米国はロシア領の攻撃に際してウクライナに情報提供はしていない」と米国防総省は言っている。



## ●元 CIA 顧問、ウクライナにおける米国の次なる行動について語る(2023年3月4日)

米中央情報局(CIA)長官の顧問を務めていたジェームズ・リッカーズ氏は、デイリー・レコニングに寄稿した記事の中で、ウクライナは戦場で負けており、ロシアに対する制裁も機能しなかったことを考慮すると、米国の次なる行動は紛争のエスカレーションしかないとの考えを示した。

リッカーズ氏は「ウクライナは戦場で負けており、ロシアに対する米国の制裁体制は失敗した。米国の唯一の対抗策は、紛争のエスカレーションだ」と指摘している。

リッカーズ氏は、ウクライナへの兵器供与拡大には「度肝を抜かれる」とし、最初に携帯式防空ミサイルシステム「スティンガー」、対戦車ミサイル「ジャベリン」、高機動ロケット砲システム「ハイマース」がウクライナに提供されたが、今やゼレンスキー大統領は F-16 戦闘機を要求していると指摘した。

リッカーズ氏は、西側の兵器の備蓄がひどく枯渇し、欧州の備蓄量は当初から少なかったことに言及した。同氏によると、不足分をすぐに補充することはできないため、備蓄をめぐる状況はさらに悪化した。

米国人企業家のイーロン・マスク氏は先に、米国のヌーランド国務次官がクリミアにあるロシアの軍事施設をウクライナ軍が標的にするのは正当だと発言したことを受け、ヌーランド氏はウクライナ紛争をエスカレーションさせていると非難した。



## ●ケンブリッジ大学の調査結果(2023年)

ウクライナ戦争で「南の国」が欧米を支持しないこれだけの理由。137カ国で英国ケンブリッジ大学が行った調査結果。欧米以外 63 億人の内 66%がロシアに、70%が中国に好感。ロシアに好感 66%の内、南アジア 75%、アフリカのフランス語圏 68%、東南アジア 62%である。世界の 3 分の 2 が欧米の味方ではない。なぜ？

五つの理由は以下。①南半球の人々は、欧米が自分たちの問題を理解し、共感してくれるとは思っていない。コロナの感染拡大でも無償でいち早く支援した国はロシア、中国、インド。パンデミック、債務返済、気候危機、貧困の蔓延、食糧不足、干ばつ、エネルギー価格の高騰に関心のない欧米が対ロシア制裁を促した。

歴史認識。植民地時代と独立後、誰がどこに立っていたのか？ラテンアメリカ、アフリカ、アジアの多くの国々は、日欧米とは異なるレンズを通してウクライナ戦争を捉えている。アパルトヘイト政権打倒闘争を物心両面で長年支援したのはソ連。南アフリカは対ロシア制裁を拒否。欧米の植民地政策に翻弄された歴史がある他のアフリカ諸国も同じ。

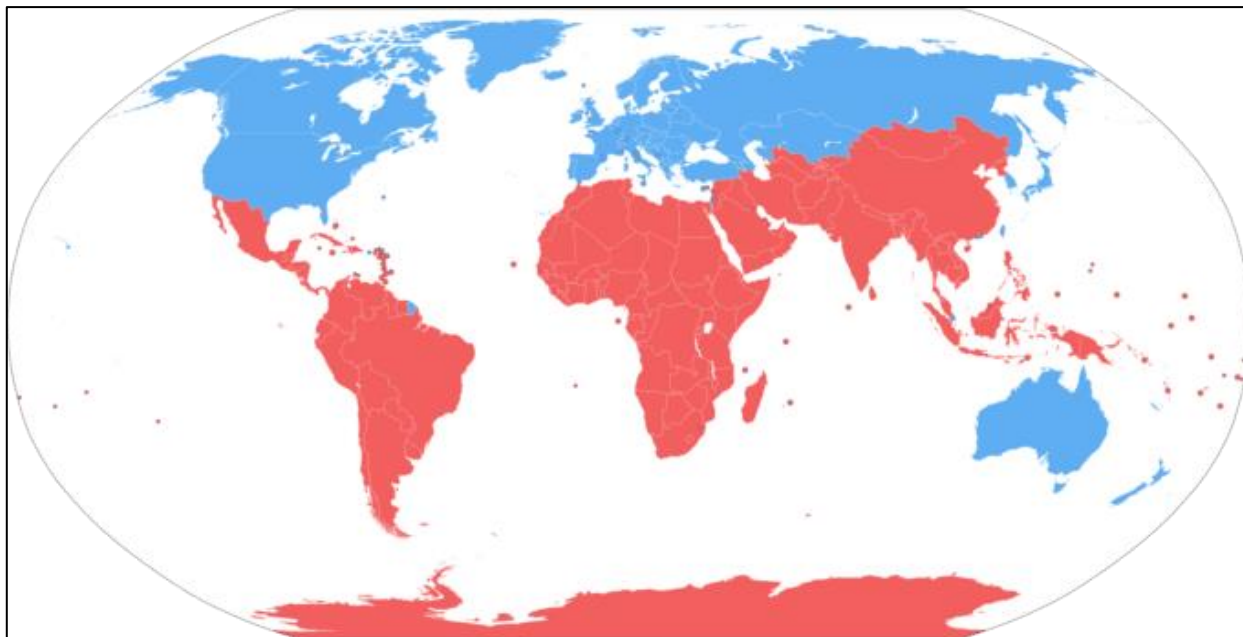
「南の国」は欧米がこの戦争を早期に交渉で終結させることが可能なのに努力していないと警鐘を鳴らしている。ロシアが 2021 年 12 月、戦争を防ぐ為に欧州の安全保障条約改定案を提案したが、アメリカと EU がそれを拒否。2022 年 4 月にはイスタンブールでのロシア・ウクライナ和平交渉を米英が頓挫させた。二重基準と見なす。

NATO と西側メディアがロシアの「いわれなき」侵略と呼びたがる、回避できたはずの侵略の代償を、全世界が払っていると「南の国」は認識。「いわれ」の存在は明確。

世界経済は、もはやアメリカ支配でも欧米主導でもなく、「南半球」には他の選択肢ができた。BRICS5 カ国の 2021 年の GDP の合計は、G7 の 41 兆ドルに対し、42 兆ドルである。ロシアは「南八国」のエネルギーと食糧の最大供給国、中国は「一帯一路構想」を通じて資金とインフラプロジェクト

クトを提供する最大の供給国。

「ルールに基づく国際秩序」は欧米が考え、他国に一方的に押し付けたものであると、南半球の多くの国々が考えている概念である。だからこの秩序に非西側では誰も署名しない。「ルールに基づく国際秩序は西側諸国にも適用されるのか」と南半球は問いかけている。



### ●ダグラス・マクレガーvs.スティーブン・ジェラード対談(2023年3月)

ダグラス・マクレガー大佐がスティーブン・ガードナー氏と対談し、ウクライナの陥落について語る。プーチンはウクライナに対して次の手を打つ。ワシントン DC に巣食う政治腐敗。アフガニスタン撤退。ワシントン DC はアメリカ国民を虐げ、世界中に混乱を引き起こしている。ダグラス・マクレガー大佐もスコット・リッターと同意見で、この戦争がどのように終わるか、モスクワがウクライナの首都 KYIV に大きな動きを見せるかについて述べています。ウクライナはロシアからの標的攻撃で動揺している。バフムートは今日現在、陥落している。

<https://youtu.be/zsPSuQAE1to>



### ●なぜ民主党はプーチンを嫌いになってほしいのか？(タッカー・カールソン、2023年2月23日)

タッカー・カールソン、プーチンを憎むように仕組んでいるのは民主党です、みんな目を覚ましな

い、プーチンはあなたの仕事を奪ったでしょうか？彼はあなたのビジネスを台無しにする世界的なパンデミックをつくり出しましたか？彼はあなたの子供たちに人種差別を受け入れるよう教えているのでしょうか？彼はフェンタニル(麻薬)を作っていますか？彼は犬を食べるのですか？

<https://twitter.com/i/status/1496302694088257539>



## ●ロシア外相、G20 に不満 食糧危機や燃料高騰は「西側の制裁が原因」(毎日新聞、2023年3月4日)

ロシアのラブロフ外相は 3 日、訪問中のインド・ニューデリーでインド外務省などが主催した国際会議に登壇し、1、2 日にニューデリーで開催された主要 20 カ国・地域(G20)外相会合について「G20 の関心はウクライナ以外にない。恥ずべきことで、こうした方針は失敗に終わるだろう」と不満をあらわにした。

ラブロフ氏は G20 外相会合を「(ロシアに対して)西側の友人たちはマイクで怒鳴っていた」と批判。また、「途上国の代表団も、(停戦に向けて)いつになったらロシアは交渉するのかと言っていた」と不快感を示した。

ロシアのウクライナ侵攻の影響による食糧危機や燃料価格の高騰に対しては「我々がウクライナで行っていることには関連がなく、西側が推進する制裁によるものだ」と主張した。

議長国のインドは外相会合について、参加国のほとんどがウクライナでの戦争を強く非難したと指摘する議長総括を発表した。ロシアと中国が同意せず、共同声明の採択には至らなかった。【ニューデリー川上珠実】



## ●ホントかしら？(2023年3月4日)

ゼレンスキーは、ウクライナ軍が包囲されているにもかかわらず、バクムートで民間軍事会社ワグネルを倒すだろうと述べた。彼の秘密は、アメリカの研究所アンブレラ社が製造した生物兵器を使用することである。



## ●ウクライナ軍がロシア系住民を生き埋めにする時の記念ビデオ(2023年3月4日)

<https://twitter.com/i/status/1631885919191191554>



## ●ウクライナ軍によるロシア系住民虐殺の写真(2023年3月4日)







●ウクライナのネオナチグループが、ブリャンスク襲撃事件の犯行を主張(2023年3月4日)

<https://twitter.com/i/status/1631851960612847616>



●プリゴジン、ウクライナ軍残党の撤退を認めるようゼレンスキーに要請(2023年3月4日)

ワグナー・グループの創始者であるエフゲニー・プリゴジンは、アルチョモフスク(ウクライナではバフムートと呼ばれる)は事実上包囲されていると述べている。彼はゼレンスキーに、ウクライナ軍の残党が市を離れることを許可するよう促した。

プリゴジンによれば、そこにはプロのウクライナ軍は残っておらず、抵抗を続けることを余儀なくされている高齢者と10代の若者だけが残っているという。ワグナーの戦闘機に捕らえられた数人の地元住民が彼の言葉を確認した。彼らはウクライナの大統領に、家族のいる家に帰らせてくれるよう頼んだ。



## ●アメリカは天候が中国の気球をコースから外したことを認め、趣味の12ドル気球を200万ドルのミサイル攻撃で撃ち落とした。(2023年3月4日)

米国当局は、2月4日に撃墜した中国の気球が、予想外の天候でコースを外れた可能性が高いと認めた。その後、米空軍はミサイルを使って200万ドルを費やし、12ドルの趣味の気球と思われるものを爆破した。ワシントンの複数の当局者によると、米軍が撃墜した中国の気球は、予期しない気象条件によってコースから押し出された可能性があります。

ワシントンの複数の当局者によると、米軍が撃墜した中国の気球は、予想外の気象条件によってコースから外れた可能性が高いという。

これは、ワシントン・ポスト紙やCNNなど、米国の主要メディアの多数の報道によるという。

中国のゴム製の物体をめぐるヒステリーに対応して、米空軍はその後、趣味のグループが作った12ドルの気球と思われるものを破壊するためにおよそ200万ドルを費やしました。

2月1日、アメリカのモンタナ州上空で、中国の大型気球が初めて目撃された。

2月4日、米軍の戦闘機がサウスカロライナ州の沖合でこのゴム製の物体を撃墜した。

ワシントンは、北京がこの気球を使って米国領土をスパイしていると非難した。

中国は、このゴム製の物体が監視装置であることを断固として否定し、代わりに気象調査に使用されていると主張した。

北京の言い分を鵜呑みにするのは、正当な理由がある。ワシントンポスト紙は2月3日、「国家安全保障と航空宇宙の専門家は、この機体は世界中の先進国が天気予報、電気通信、科学研究に使用している高高度気球と特徴を共有しているようだ」と述べていると認めています。

ペンタゴン自身は、「パイロードは、中国がスパイ衛星を通じて収集できないような監視をあまり提供しないだろう」とし、「気球は深刻な物理的または情動的脅威をもたらさない」と述べている。

- アルノー・ベルトラン (@RnaudBertrand) 2023年2月4日

同紙は、「パイロードは、中国がスパイ衛星を通じて収集できないような監視をあまり提供しないと述べた」匿名の米国「国防高官」の言葉を引用し、「革命的とは言えない」と述べている。

米国政府と兵器産業から資金提供を受け、反中国的な偏見で悪名高い好戦的な右派シンクタンク、戦略国際問題研究所(CSIS)でさえ、2月3日の記事で、早くから注意を呼びかけていました。「中国はこれまで気球をスパイ活動に使ったことがなく、気球を使うことは一歩後退することになる。最も可能性の高い説明は、これは迷子になった気象観測気球であるということです。気象観測気球の紛失は、多くの『UFO目撃情報』の根拠となっています」と述べている。

中国の気球が作られた危機の一部であることは最初から明らかであり、その意義はゴム製の物体そのものと同様に、制御不能に吹き飛ばされていたのである。

しかし、メディアの熱風は中国との緊張を高め、米国民に恐怖心を与え、アントニー・ブリンケン国務長官が北京への外交訪問を中止させるという結果を招いた。

共和党と民主党、そして新保守主義のシンクタンクからなる米国のタカ派政治家たちは、このバブルを利用して中国を危険な脅威と見なした。

スレートは、米国下院監視委員会の委員長を務める共和党のジェームズ・コマー下院議員が、気球には武漢で作られた「生物兵器」が搭載されている可能性があるかと警告し、ニュート・ギングリッチ前下院議長は「破壊的な電磁パルス兵器を目立たないように運ぶための試運転かもしれない」と主張したと報じた。

CNBC は、この気球が「NATO 加盟国を脅かす」と断言し、西側軍事同盟の好戦的なイエンス・ストルテンベルグ事務総長を引用して、このゴム製の物体を危険な「中国の行動パターン」の兆候として非難し、「中国の情報によるリスクを常に意識して、自分を守るためにすることを強化しなければならない」と主張しています。

